SUMITOMO

住友建機 リサイクル紀行

Vol.42 平成商会（大阪府）

2025年に開催される国内最大級のイベント「大阪・関西万博」の開幕が今年4月に迫っている。万博の目的のひとつが、人類が築いたアイデアや技術をもとに将来の展望を示すということだ。万博会場と同じ大阪市内で金属リサイクル事業を行う平成商会（本社＝大正区鶴町、柳隆一社長）は、誠実な商売で信頼を重ねつつ、柔軟なアイデアと実行力で業界イメージの向上や新時代における企業経営の確立を目指した取り組みを続けている。

面積7300㎡は市内最大級 ユーザーの幅広い要望に対応

平成商会は柳社長の父・柳茂盛氏（現会長）によって1989年（平成元年）2月に設立。新時代の元号を社名に冠し、大阪市港区でスタートした。2004年に大正区の現在地に移転。2011年には隣接地を買収してヤードを拡張した。現在の敷地面積およそ7300㎡は大阪市内で最大級だ。都市部から近い広大なヤードの機能性とスタッフの機動力や技術力を強みに、現在は鉄スクラップを月間3000㌧ほど、非鉄・雑品スクラップを月間1300㌧ほど取り扱い、再生資源に加工して国内外のユーザーへ供給している。

鉄スクラップは、域内の発生・流通量や設備の設置状況を考慮して、油圧シャーなどの加工処理機械を保有しない独自のスタイルで運用を続けている。主力は月間1000㌧を扱う大型構造物などの解体だ。ガス切を施す大型構造物の処理は、技能者の高齢化や人員不足の課題があり、鉄スクラップの中でも対応が難しい商材とされる。平成商会はこうした処理困難物の受け入れも積極的に行い、ユーザーの幅広い要望に応えながら実績と信頼を重ねてきた。

2020年にリニューアルした事務所

柳社長は『一つのことに執着しない』ことが先代から受け継いだ会社の精神」と話す。設立当初は、トラックやバスの解体で発生するエンジンなどの自動車部品や自転車、産業機械などを東南アジアのパートナー企業に販売する貿易事業を展開。大正区に拠点を移転した後は、雑品や非鉄金属の貿易が拡大した。

中国の資源需要が増加する中で雑品の貿易事業は収益の柱に成長したが、2010年代に入ると中国における環境政策の変化を受けて雑品事業も変化が迫られた。相場リスクも高まったことで、ヤードを拡張した2011年以降は鉄スクラップの扱いに事業の主力がシフト。きちんと解体して、ひと手間を加える商売が評判を生み、新規顧客も増えていった。現在は鉄リサイクル事業を中心に輸送事業、解体作業、コンテナバンニング、各種商材の輸出入事業なども手掛けている。

2019年に隆一氏が社長のバトンを受け継いだ後は、人員や設備の拡充が加速した。スクラップの発生減やプレイヤーの増加で競争が激化する中でも、誠実な仕事を徹底する平成商会の業容は着実に拡大している。

「新3K」の概念を提唱 業界イメージを本気で変える

時代が令和に変わり、平成商会ではコンプライアンスの徹底や業界イメージの変革など、新たな時代の企業形成に向けた挑戦も続けている。柳社長は金属リサイクル事業における新3K（稼げる、恰好が良い、環境に良い）の概念をいち早く提唱。その本気の姿勢は同社のオフィスや職場でも随所に見受けられる。

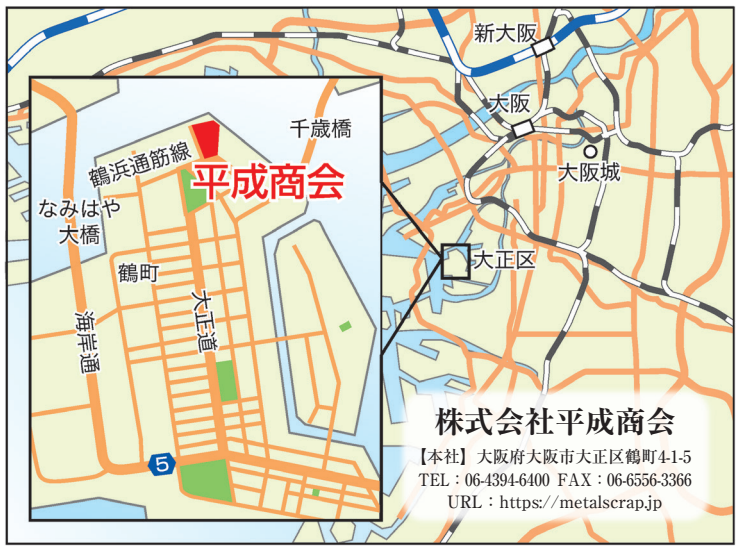
柳社長（左）と井原進也工場長

2020年にリニューアルした本社事務所は、グラフィックアートに囲まれたファッショナブルな内装で、清潔感がある休憩室やシャワールームも完備している。作業服にはデニム素材を取り入れ、スタッフの出で立ちには職人の気概と相まった「カッコよさ」がにじみ出ている。

人材採用や企業PRの観点から、近年はSNSなどを通じて会社の様子を積極的に発信している。会社の姿を知った上で入社したスタッフの定着率は高く、2019年に柳社長と井原工場長の2人体制だった現場は、現在9名体制となった。5年前には月給制と完全週休2日制を導入。スタッフの精神的な安定にもつながり、休日明けの作業効率は大きく向上したという。

このほか、地元プロ野球チームとのスポンサー契約や野球教室の開催など業界のイメージを変える活動は枚挙にいとまがない。既存の概念に捕らわれない発想で新時代への変革を示し続けている。

拠点所在地



～住友建機がある風景～

SH250-7MH：平成商会では住友建機SH250-7MHを2機導入しており、広大なヤードに日々納入される大小様々なスクラップをオペレーターの技術で手際よくハンドリングしている。

ヤードのマシンもPR戦力に

平成商会のヤードで稼働するマシンは、グレーを基調にブルーのラインをあしらった「平成商会カラー」に彩られている。メンテナンスや清掃が徹底されており、ボディは周囲の風景を映し出すほどピカピカに磨き上げられている。その姿を目にした来訪者の一人は「カッコいい」と声を漏らしていた。

オフィスの内装やスタッフの作業着と同様に「現場で働くマシンも会社のPRにおいて戦力になる」と柳社長は話す。平成商会において人材確保は経営上の重点項目だ。若い人たちに「この重機を操縦したい」と直感的に感じてもらうことは、現場スタッフの採用において重要な要素になるという。

住友建機は2021年末に初号機（SH250-7MH）を納入、250クラスのマシンは平成商会で初めての導入になった。きっかけは、住友建機の担当スタッフによる定期的な飛び込み訪問だった。1週間、住友建機のマシンを試験導入することになり、実機を操縦した現場スタッフから高い評価が上がってきたという。この現場の声が最終的な判断材料になり住友建機の採用を決めた。

SH250-7MH（同社初号機）

柳社長は「機械は買って終わりではなく、導入後の運用が重要」と話す。住友建機のサポートによる迅速な対応と的確な提案も高い評価につながり、2024年1月には2機目のSH250-7MHを導入した。

担当：髙橋 順

平成商会様には住友建機が提供するマシンの機能を評価していただきました。アフターフォローなど、今後もより良い提案ができるよう努めてまいります。

住友建機販売株式会社　大阪支店
〒555-0043 大阪市西淀川区大野三丁目7番
Tel：050-9001-8599　Fax：06-6476-3767